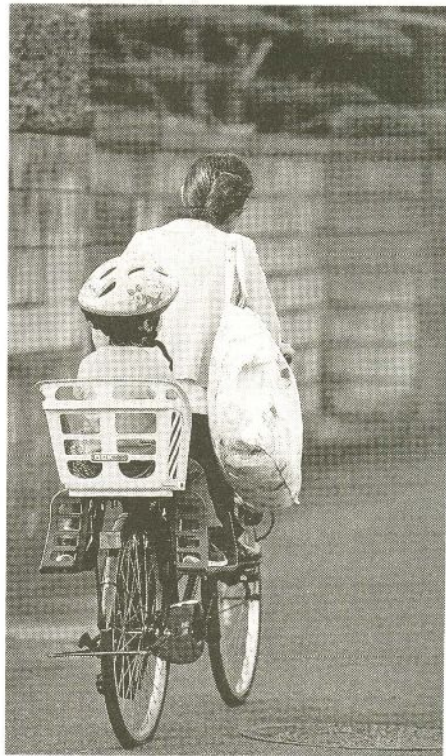


生活不安 底見えず

報われない世代



息子を自転車に乗せて、保育所へ急ぐ。精いっぱい生活。「2人目なんて、やっぱり難しい」(撮影・山本啓)

踏み出せぬ出産・結婚

弱者化する日

「うち、貯金できて
るの?」年金問題の特
集をテレビで見えていた
夫から不意に聞かれ、
言葉に詰まった。貯金
?「できるわけないじ
ゃん。そう答える代
わりに、いらだちを夫
にぶつける。「たばこ
やめてよ」。向こうも
「もっと節約できるん
期世代」運送会社に勤

める夫の月給は手取り
で二十四万円くらい。
何とか暮らしていける
が、うち七万円が残業
手当。「早く帰ってきて
ね」と言えず、一人き
りの家事と育児にスト
レスを抱える日々だ。

上司バブル懐古
自分も専門学校の実
築科を卒業後、出産直
前まで建設業の孫請け
会社で働いてきた。バ
ブル時代を懐古する上

「ボーナスなんて一
度ももらったことがな
い」。女性は明るく笑
つてみせる。二十五歳
で結婚。当時、契約社
員だった夫が正社員に
なれるまでは、不安で
子どもはつくらなかつ
た。育児休暇中も、イ
ンテリアコーディネー
ターの資格を取得。子
どもを保育園に預けて
復帰した。が、待ち受
けていたのは景気低迷
による建設業の不振。
仕事がなく、解雇され
た。いまは契約社員と
して働いている。

将来が不安でしかた
がない。教育費、親の
介護、自分たちの老後
。年金制度の限界は
見えている。社会の危
うさを肌で感じてき
た。貯金しなくちゃ。
働かなければ。

子どもと散歩をして
いた、ある日。通りす
がりのおじいさんが話
し掛けてきた。「子ど
もが一人じゃいけんで
っ」。そりゃ、産みた
いよ。くつと言葉を
のみ込んで、逃げるよ
うにその場を去った。

就職氷河期世代が、
出産や結婚する年齢を
迎えた。が、総務省の
労働力調査(二〇〇七

年)によると、二十五
一三四歳の年長フリ
ーターは九十二万人。
どうすれば抜け出せる
のか。景気の後退感
強まるばかりなのに。
就職活動を再開
「なりたくてなった
訳じゃない。フリータ
ーなんて」。広島市の
男性(29)はアルバイト
を掛け持ちし、生計を
立てる。実家暮らし、
独身。世に言う「パ
ラサイトシングル」。
広島県外の国立大に
ストレートで合格。生
物工学を学び、企業の
研究員を志した。が狭
き門。他業種に視野を
広げたが、求人誌に躍
る「即戦力」の文字は
かりが目についた。「き
つと無理だ」。卒業の
年、就職を断念した。
帰省し、数社の採用
試験を受けたが面接止
まり。母親はいいかげ
んに独立をこ責める。
街をぶらつき時間をつ
ぶした。二十代も終わ

加藤一郎氏 東大紛争学長



民法学の
權威で、東
大紛争時に
学長を務め
た東京大名
十一日午前八時四十八
分、肺炎のため東京都
世田谷区の病院で死去
した。八十六歳。東京
都出身。自宅は東京都
世田谷区成城三ノ一〇
ノ三〇。葬儀・告別式
の

る。このままじゃ、生き
る意味がない。昨年、
就職活動を再開した。
妹は嫁いだが、自分
は結婚などずっと先。
こんな世の中、まとも
な子育てができるのか
。収入を安定させる。
それが自分の出発点。
(おわり)

この連載は木ノ元
陽子、野田華奈子、
田中美千子が担当し
ました。